

北海道でただひとつの 伝統的建造物群保存地区

八月の末に、北海道函館市に行く機会がありました。函館市には北海道で唯一の重要伝統的建造物群保存地区「函館市元町末広町」があります。

元町末広町は、夜景で有名な函館山のふもとに開けた、函館港の隆盛を物語る町並みです。個々の建造物は、洋風だったり、和洋折衷様様だったり、わが国の近代化による影響が強く見られます。

北海道には、このような洋風化が進んだ地区が比較的多く残されています。これは、本土からの入植が明治以降積極的に進められたため、特に海沿いでは港や運河の開発により、洋風化が際立っています。ただ残念なことに、伝建地区に選定されていないため、個々の建造物が残るだけとなっています。

そんな中、独自のまちづくりで多くの観光客を引きつけているのが小樽市です。運河で有名な小樽市は、独自に「歴史景観区域」を設け、特徴的な建造物を保存・活用していますので、併せて紹介します。



ご存知「函館山の夜景」。

函館市元町末広町（港町）

所在地	北海道函館市弥生町、大町、末広町、元町および豊川町の各一部		
種別	港町		
条例制定年月日	昭和六三年三月三一日	選定年月日	平成元年四月二一日
地区面積	約一四・五ヘクタール		
保存物件数	建築物 七六件	環境物件	二五件

函館の名は、室町時代に津軽・南部氏との抗争を逃れた河野政通がこの地に渡り、土塁で囲まれた館を構えましたが、その様が箱に似ていることから「箱館」と呼ばれたことに由来するといわれています。古くから松前・江差とともに「松前三湊」と呼ばれる、天然の良港として知られていました。

安政六年（一八五九）には、長崎・横浜とともにわが国最初の対外貿易港として開かれ、翌年の万延元年にロシア領事館が新築されたことにより、以後外国公館や教会が建ち並ぶ中心地となりました。



重要文化財函館ハリストス正教会復活聖堂。ロシア・ビザンチン様式の名建築です。



東本願寺函館別院。本堂は明治40年の建築で、わが国最初の鉄筋コンクリート造ですが、重要文化財に指定されています。



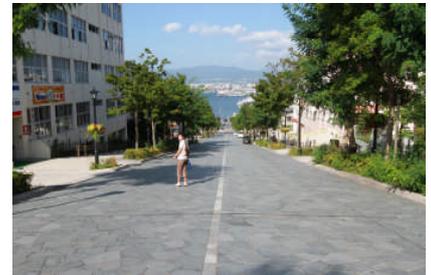
重要文化財旧函館区公会堂。明治40年の大火のちに建てられ、伝建地区を代表する建造物です。



金森赤レンガ倉庫群は、函館港の顔とも言える建造物です。明治の大火の後に造られました。商業施設として活用されています。

函館は坂のまちです。港から函館山の山麓にかけて町並みが形成されましたが、そのため古い建造物を見るには急坂を上らなければなりません。町並みも、石垣を設けて水平をとり建てられています。いったん坂を上ると、等高線に沿って平らな通りを作り、碁盤の目のような街区を形成しています。著名な建造物は、いずれも港を見下ろせる高台に建てられ、多くの見学者を迎えています。

港には「金森赤レンガ倉庫群」など、明治四十年の大火以後に防火目的で建てられたレンガ造建築が目立ち、どこことなく異国情緒を感じさせます。いずれもレストランやショップなどの商業施設として活用されています。



坂にはすべて名前が付いています。この坂は、ハリストス正教会そばの「八幡坂」で、直下に函館港が見えます。



「二十間坂」を下から見たところ。奥に函館山が見えます。歩くかなりの急坂です。

【小樽市のまちなみ】

小樽にも足を運びました。

小樽もレンガ造や石造の古建築が数多く保存されており、多くの観光客が集まるところです。また、小樽といえば「小樽運河」が特に有名で、運河に沿って倉庫群が建ち並ぶ風景は、函館とよく似ています。

先述しましたが、小樽は伝統的建造物群保存地区に選定されていません。ですが、独自に「小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例」を制定し、条例に基づいて「小樽歴史景観区域」を定めています。

【小樽歴史景観区域】

条例に基づき、歴史・文化等から見て小樽らしい良好な景観を形成している区域を指定しており、面積は一三一・六ヘクタールに及びます。

この区域を、景観特性や歴史的背景を考慮して十五の地区に区分し、それぞれに基準を設け、各地区の特性にあった良好な都市景観の形成に努めています。

小樽と聞いて私たちがよく連想する小樽運河は、石造倉庫などの保全に努め、これらに配慮した町並みの形成に努めなければならない地区に入っています。

区域内の歴史的建造

物は「小樽市指定歴史的建造物」と呼ばれ、

説明板が設置されています。歴史的建造物は

街中では銀行、商店が多く、運河沿いでは倉庫がほとんどです。銀行や商店の構造は「木骨石造」というもので、明治時代に洋風化と耐火性を重視した結果と思われま

【小樽運河】

「小樽の顔」ともいうべき小樽運河は、大正十二年（一九二三）に開削されました。港町小樽の発展に尽力した運河ではありませんが、陸上輸送への転換に伴い利用されず、ヘドロがたまる、汚い、など指定の声とともに、埋め立てられ道路にする計画が上がりまし

た。しかし、市民運動により半分は保存され、今日に至っています。

運河には、塩山御影が使われていると聞いたことがあります。歩道まで御影石で舗装された運河周辺の景観は、本当に優れたものです。



歴史的建造物に貼られたプレート。



運河の海側には倉庫群が並びます。レストランとして活用されています。反対側には遊歩道が整備され、小樽の町へと続きます。

【小樽のまちの感想】

小樽市指定歴史的建造物は、私たちが言うところの「指定文化財」とは異なります。基本的に景観上の「指定」であって、指定文化財のような活用上の制限はありません。運河の保存運動を通じて、このような歴史的建造物が人を集めるための資源であることに気付いたのでしょうか。商業スペースとすることで、建物を

壊すことなく活用をしています。

倉庫群には、全国展開するファミレスが入っています。資源がよければ、資本が集まるといふことです。



小樽市指定歴史的建造物、旧安田銀行小樽支店。昭和5年の建築で、鉄筋コンクリート造。ギリシャ様式の典型的な銀行建築です。現在レストランとして活用されています。



小樽市指定歴史的建造物、旧百十三銀行小樽支店。明治26年の建築で、木骨石造という珍しい建て方をしています。ガラス細工などを売っています。



小樽市指定歴史的建造物、旧金子元三郎商店。明治20年の建築で、木骨石造。土蔵形式の建物が多く、明治期の商店の典型です。現在はガラス細工のお店です。



小樽市指定歴史的建造物、岩永時計店。明治29年建築で、木骨石造。二階バルコニー、半円アーチ扉などハイカラな外観ですが、屋根には鯨が乗っています。現在オルゴール屋です。



小樽市指定歴史的建造物、旧第百十三国立銀行小樽支店。明治26年の建築で、木骨石造。寄棟の瓦屋根にトンガリ飾りをつけた和洋折衷の建造物です。